

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|-------|--|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 60 | 入所中の利用者が入所期間の長期化に伴い高齢化していることから、ADLなどの低下が進み車椅子での移動や見守り歩行の必要性が増えてきたことから、利用者全員での外出機会などが減ってきている。 | ADLの低下がある場合でも安全に移動できる環境を整備して、今まで通りに外出できるようにしていく。 | 安全にホーム外(道路や施設)の移動ができるように車椅子やシルバーカーなどを設置していく。また外出や外食時には職員の配置も増員し安全に移動できるようにしていく。 | 3ヶ月 |
| 2 | 12・36 | 入所中の利用者が入所期間の長期化に伴い高齢化していることから、ADLなどの低下や認知症の進行に伴い、提供するサービスがそれぞれ多様化していくことから職員が業務に追われることになり、利用者個々と落ち着いて会話できる時間が少なくなってきた。 | 職員勤務体制を改善し、利用者と一緒に会話できる体制、環境を整備していく。 | 職員の増員や勤務時間の短縮することにより、職員のストレスを改善して効率的に業務遂行できるような体制作りをしていく。(平成28年2月より職員勤務体制の変更を実施。1勤務時間を基本的に5時間以内、週労25時間以内を実施する。) | 3ヶ月 |
| 3 | 33 | ホーム開設後、終末期支援を行ったことがないが、利用者の高齢化や重度化に伴って終末期ケアや看取りについて社内研修などを実施しているが職員の基礎知識などについて不安がある。 | 利用者本人や家族の意向、医師の判断のもとで、終末期支援を行っていく。また外部研修や他実際に看取りケアを行っているグループホームなどとの連携を深めていく。 | 研修への参加や医師、看護師からの基礎知識の学習、他施設の取り組み状況などを聞きながら、終末期支援についてホームとして積極的に取り組んでいく。 | 3ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。